

# << 注 意 報 >>

岡 病 防 第13号  
平成26年 7月30日

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病虫害防除所長

## 病虫害発生予察情報の発表

病虫害発生予察注意報第2号を下記のとおり発表したので送付します。

平成26年度病虫害発生予察注意報第2号

平成26年 7月30日  
岡 山 県

病虫害名 **イネいもち病(葉いもち、穂いもち)**

1. 発生が予想される地域  
県内全域

2. 発生が予想される時期  
8月上旬以降

3. 予想される発生量  
多

### 4. 注意報発表の根拠

(1) 本田での葉いもちの初発生時期は平年(6月第5半旬)並の6月第4半旬で、その後の病勢進展は平年並であったが、7月第5半旬に急速に病勢が進展した。

7月24~25日の巡回調査(30地点、90圃場)によると、県内全域の葉いもちの発生圃場率は32.6%と平年(43.8%)よりやや低いものの、発生程度「中」<sup>\*</sup>以上の圃場率は12.4%と平年(8.1%)よりやや高く、特に中部地帯で16.7%(平年8.7%)、北部地帯で13.3%(平年3.4%)と高い。

<sup>\*</sup>発生程度「中」: 一株当たりの病斑数が11~50個認められる。

(2) 気象経過(アメダスデータ)から推定されるいもち病の感染好適条件は、6月下旬~7月中旬にかけて県下の広範囲に散発的に現れている。

(3) 広島地方気象台7月24日発表の季節予報によると、向こう1か月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされているものの、大気的不安定な状態が続くと、にわか雨などによって病勢が進展する可能性がある。

### 5. 防除対策及び防除上の参考事項

(1) 既に葉いもちが発生している圃場では、表を参考に液剤又は粉剤を直ちに散布する。極早生種や早生種などでは7月下旬から出穂期を迎えているので、穂いもち防除を出穂直前と穂くび出揃期の2回行う。なお、粒剤は薬剤によって施用時期が異なるので使用方法に注意する。

(2) 最新の農薬登録情報は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターホームページ(<http://www>)

w.acis.famic.go.jp/searchF/vt11m000.html) で確認できる。

表 主な防除薬剤（下記単剤の他、下記成分を含む混合剤）

薬 剤 名	農薬使用基準		
	使用時期	使用回数	希釈倍率・処理量
ビーム粉剤DL	収穫7日前まで	3回以内①	3～4kg/10a
ビームゾル	収穫7日前まで	3回以内①	1,000倍
ダブルカットフロアブル	穂揃期まで	2回以内	1,000倍
ブラシン粉剤DL	収穫7日前まで	2回以内	3～4kg/10a
ブラシン水和剤	収穫7日前まで	2回以内	1,000倍
ブラシンフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	1,000倍
オリゼメートパック	収穫14日前まで	2回以内②	パック20～26個/10a
オリゼメート粒剤	葉いもち初発10日前～初発時③	2回以内②	3～4kg/10a
コラトップ粒剤5	葉いもち初発10日前～初発時④	2回以内⑤	3～4kg/10a
コラトップジャンボP	葉いもち初発20日前～初発時④	2回以内⑤	パック10～13個/10a
★イモチエース粒剤	収穫35日前まで	1回以内	3kg/10a
★オリブライト1 <sup>kg</sup> 粒剤	出穂10日前まで ただし、収穫45日前まで	1回以内	1kg/10a
★オリブライト250G	出穂10日前まで ただし、収穫45日前まで	1回以内	250g/10a

★：QoI剤（本県の一部地域で耐性菌が確認されている。平成25年度植物防疫情報第2号、第6号参照。）①：育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内。②：育苗箱への処理及び側条施用は合計1回。③：穂いもちには出穂3～4週間前、収穫14日前まで。④：穂いもちには出穂30日前～5日前まで。⑤：育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内。

（参考）この情報は、農林水産総合センターホームページでも公開しています。

アドレスは、[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakubu.html?sec\\_sec1=22](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakubu.html?sec_sec1=22)